



人とクルマのいい関係をめざして

8

2008 AUGUST

●編集室：〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
本田技研工業株式会社
安全運転普及本部内
電話 03(5412)1736

●編集人：千葉英雄

●年間購読料：1200円(定価1部100円・消費税込)
※郵便振替 口座番号：00170-7-173273
※加入者名：(株)アストクリエティブ
安全運転普及本部係

安全運転普及活動ホームページ <http://www.honda.co.jp/safetyinfo/>今月の
スポット

事故を起こせば経済的、
会社イメージの損失も発
生し、企業活動にマイナ
スの影響を与えます。事
故を減らすためのお手伝
いをすることで、お客様
の役に立てると考えてい
ます。(特集より)

CONTENTS

- 特集：業務で運転するライダーへの安全運転教育 ①
企業における二輪車・三輪車の
事故防止対策 ②
教育最前線⑤ ③
●Honda DREAM 高機・スポーツライディングスクール/バイクを操る
楽しさを実感してもらおうライディングスクール
- 私の提言 ④
●清武直志/心肺停止した人を蘇生させるためのAED。
より多くの人々に使い方を覚えてほしい
- 危険予測トレーニング(KYT) ④
●第4回 一時停止標識のある小さな交差点(四輪車)
- TRAFFIC ADVICE—交通教育センターから ⑤
●四国電力(株)安全運転指導員・若年者等合同研修/合同研修による
相乗効果でさらなる運転技術向上に期待
- SAFETY REPO ⑤
●Honda Cars 熊本・安全運転セミナー/事故防止に役立つ知識を
提供し、お客様の安全意識を高める
- TOPICS ⑤
●本田技研工業(株)安全運転普及本部とASIMOが
交通安全イベントへの協力で埼玉県警察本部より感謝状
- ホンダ輸送グループ安全協議会 交通安全標語・ポスター表彰式
- DOCUMENT EYE ⑥
●運転席のヘッドレストの高さを観察する

特集：業務で運転するライダーへの安全運転教育

企業における二輪車・三輪車の
事故防止対策

宅配サービスなど、さまざまなビジネスを支える二輪車・三輪車。業務で二輪車・三輪車を運転するライダーに対し、企業はどのように安全運転教育を行っているのだろうか。Hondaでは各地の交通安全教育センターや二輪販売店を中心に、二輪車・三輪車を利用する企業向けの安全運転研修会を実施している。安全運転研修会を活用している企業の安全運転教育への取り組みを紹介する。



ドミノ・ピザ小岩店マネージャー代理の佐久間大輔さん。一時停止場所では出会い頭事故防止のために、必ず2段階停止と止まった時に3秒間足をつけて、安全確認の時間をとっているという

宅配ピザチェーン「ドミノ・ピザ」を展開する(株)ヒガ・インダストリーズの安全運転教育は20年近くの歴史がある。1990年に「安全はすべてに優先する」という「安全宣言」を発表。1999年に「スマートドライビング宣言」を行い、安全運転の理念を具体化し、実施体制を整備した。スマートドライビング宣言について、同社営業部 Dominos University・スーパーバイザーの宗石英輝さんは、「それまでのルールを守ることがを教え込むことから、自分の命を守り、人の命を守るために自分で考えて安全運転する、という安全意識の転換をめざしたのです」と説明する。デリバリー(配達)のプロとして、さらに一歩進んだ安全運転を追求して打ち出したのがスマートドライビングだ。その基本は「人にやさしい」「地域にやさしい」「環境にやさしい」「車両にやさしい」「ピザにやさ



高校生を中心とするクルーへの安全運転教育には、Hondaライディングシミュレーターを活用

しい」そして「あなたにやさしい」という6つのやさしさである。

安全管理のために
マネージャー全員が
安全運転研修を受講

現在、実施されている同社の研修体制は、新人アルバイト研修と正社員・管理者研修に分かれる。毎年30〜40名採用する正社員に対して安全運転研修を、交通安全センターレインボー埼玉(以下、レインボー埼玉)で行っている。さらに今年からは店舗の責任者であるマネージャー全員に安全運転研修を義務づける制度もスタートする予定。「これまで、マネージャーは運転をしないので管理面を強化すれば良いと思っていました。安全運転教育をすることで、自分で体験し、学ばなければ適切な安全管理ができません」ということで、今後、マネージャーに対しても教育をすることになったのです」と宗石さん。



(株)ヒガ・インダストリーズ営業部 Dominos University・スーパーバイザーの宗石英輝さん

ドミノ・ピザ小岩店ストアーマネージャーの石井瞳さんは昨年、社員に採用され、11月にレインボー埼玉で安全運転研修を受講した。「ドミノ・ピザでクルー(アルバイト)として働いていましたが、

デリバリー担当ではなかったので、研修では三輪スクーターの操作を一から教えていただきました。運転経験の浅い高校生などが入った際には、初めは三輪スクーターの運転に戸惑う人もいます。そうしたクルーへのアドバイスに、研修で身につけたことが役立っています」という。同じく研修を受講した小岩店マネージャー代理の佐久間大輔さんは、クルーとして6年間デリバリーを担当してきた経験がある。「実車を使って、一般道路ではできないトレーニングができました。また、どう伝えればクルーにもわかりやすいかということが学べました」と、指導する立場としての気持ちを新たにすることができたようだ。



クルーへの指導にレインボー埼玉での研修が役に立っているというドミノ・ピザ小岩店ストアーマネージャーの石井瞳さん

シミュレーターを活用した
アルバイトへの教育

一方の新人研修は、年間に約1000名の新たに採用したデリバリーのクルーを対象とする。東京の本社で土、日の午前と午後に行っている。昨年は800名が受講した。研修は座学と2004年に導入したホンダライディングシミュレーターによる教育を3時間かけて行っている。最近のクルーの中には高校生も増えた。かつてはバイク好きな若者がデリバリーの主力だったが、今はバイクが好きで入ってくるのは1割。「今の若者は頭ごなしに言っても伝わりません。自分が納得しないと実践してくれないのです。なぜ、そういう運転をする必要があるのか理解してもらうために、シミュレーターを活用しています。短時間で効率的に危険予測のポイントを身につけてもらえることも、シミュレーターのメリットで

特集：業務で運転するライダーへの安全運転教育

参加体験型の実践教育により、社員の安全意識を向上

「す」と、宗石さんは話す。

各店舗ではレインボー埼玉で作成した危険予測の資料をもとに、地域の危険箇所を写真で撮り、それを基に危険予測トレーニングの資料を作成し、ベテランのクルーが後輩に実地で指導するという体制を整備している。

宗石さんは、「店舗の責任者であるマネージャーは、定期的に2年ぐらいで交代します。店舗の安全に関しては経験のあるクルーが中心になり、クルー全体の安全意識を高めることも大事です」という。その一環として、2002年にクルーのセーフティインストラクター制度を導入。現在、東京エリアの直営店14店舗に対し、レインボー埼玉で安全運転研修を受講した40名のインストラクターを配置し、各店舗の指導に回る。導入の翌年2003年度から事故が大幅に減少し、その水準を維持しているそうだ。

早朝と夕方の交通状況に合わせた運転をするために

朝日奨学会西部事務局は交通安全教育センターレインボー福岡で、新聞配達の奨学生・二輪車スクールを開催している。同事務局の樋口眞理子さんによると、このスクール



一時停止場所で完全に止まることと、左右の安全確認の必要性をインストラクターが強調した

新聞配達は朝刊が午前3時から6時頃、夕刊が午後3時から5時頃。樋口さんは「朝の暗い時間帯は、『眠いまま運転している』『交通量が少ないからとス

は、朝日奨学制度を利用して、朝日新聞の朝刊・夕刊の配達などの仕事をしながら大卒や短大、専修・各種学校等へ通う学生の交通安全を目的としている。対象は、毎年新しく入ってくる奨学生。6月22日に開かれたスクールでは、9人の奨学生が正午から午後2時までの2時間のプログラムを受講した。

はじめはクルマの死角。1台のクルマの横に4台のスクーターが置かれ、受講者はクルマの運転席と4台のスクーターにそれぞれ乗車し、お互いの存在を確認することができるとチェックする。そして、スクーターはどの位置を走行するのが一番安全なのかを確認してもらう。

発進停止、ブレーキの練習を行った後、配達時に多い事故事例を学ぶ。事例は出会い頭事故と右直事故。交差点で右折しようとするクルマの運転席に座ってもらい、ドライバーがスクーターに気づきにくいことなどを確認する。最後の法規走行のトレーニングでは、一時停止標識がある場所で、徐行はするが完全には停止しないまま通過してしまう受講者に、「標識を見逃しています。クルマは来ないだろうと思わない。急がずにしっかりと止まらなくてはならない。急がずにください」とインストラクターがアドバイスした。閉講式でも、インストラクターが強調したのは一時停止。「一時停止場所で止まらないなど1回の不安全行動では事故が起きないかもしれませんが、こうした小さな不安全行動を積み重ねることが大きな事故につながるのです。一時停止すべき場所まで止まるなど、日頃から安全運転を心がけてください」。

「ピードを出している」クルマがあります。夕方は交通量も人通りも多くなるので、クルマだけでなく自転車、歩行者にも注意が必要だ」と、早朝と夕方の交通状況の違いを指摘し、どんな状況でも一時停止や安全確認をしっかり行うことなど安全運転の基本を体験して、身につけてもらうことがスクールの目的と語る。参加した奨学生の1人は「朝の配達中、信号無視をするクルマを見たことがあります。狭い道など、一時停止標識があるかどうか分からない場所もあります。クルマが来ていなくても止まる習慣を心がけたい」と、スクールでのアドバイスを受け止めていた。



一人ひとりクルマの運転席に座り、クルマの死角を確認する

自分の走行をチェックするための研修

7月7日、大泉自動車教習所(東京都練馬区)で東芝エレベーター(株) 東京支社の安全運転講習会が行われた。講習会は午前9時の部と午後2時の部に分かれ、合わせて30人の同社社員が参加した。

同東京支社安全環境部主任の小坂誠さんによると、東京支社では、エレベーター、エスカレーター、保守点検業務のための移動に三輪バイクを活用しているという。「東京支社では三輪バイクは約100台稼働しており、これを約300人の社員が利用しています。東京以外の事業所は主に四輪車を利用しているので、東京支社に異動になって初めて三輪バイクを運転する社員も少なくありません。四輪車ではベテランの社員が同乗して、運転の状況をチェックしています。三輪バイクはそれができません。運転している本人も自分の運転技術がどのくらいのレベルなのか、把握するの



見通しの悪い交差点での安全確認について、アドバイスを岩辺さん

が難しいのです」。

この安全運転講習会は、二輪販売店の(株) ホンダ二輪・新宿が運営している。指導を担当するのは、安運・モーター課マネージャーの岩辺朗さんをはじめ3人のインストラクター。基本法規を学ぶ座学の後、「日常点検」「ブレーキ」「法規走行」「右直事故の危険性」「バランス走行」が行われる。

法規走行は指定されたコースを一人ひとりが走行し、インストラクターが交差点での右左折、一時停止場所の通過における安全確認状況をチェックする。右直事故の危険性の体験は、交差点の手前に大型トラックを停車させ、その左横を三輪バイクで20km/hで通過し、大型トラックの先にいる対向右折車を発見したらブレーキをかけて止まるというもの。危険を認知して、ブレーキをかけてから止まるまでに距離がかわることを示し、もし右折車が曲がってきたとしたら、衝突してしまうということを伝える。「直進優先でも、右折待ちのクルマがいる時は『曲がってくるかもしれない』と危険予測し、交差点の手前で減速してください。右折待ちのクルマを先に行かせてあげるくらいの気持ちに余裕があるといいでしょう」と岩辺さんがアドバイス。

小坂さんは、「法規走行やバランス走行では、インストラクターに自分の運転をチェックして



大型トラックの横を通過した時の右直事故の危険性を理解してもらう



バイロンスラロームなどのバランス走行も行われた

もらい、不適切な部分に気づくことができます。また、同僚の運転を客観的に見ることとで、自分の運転を振り返る効果もあります」と語る。今回で3回目の参加となった小山勝晴さんも、講習会の効果を実感する。「1回目の時に、一時停止場所で自分ではきちんと止まっているつもりでも、実際には止まっていなかったのが印象に残っています。それ以来、一時停止場所では必ず止まるように意識して運転しています。重要なことを再確認できるので、こうした機会が定期的にあるのはいいと思います」。

東京支社では、業務で三輪バイクを運転する社員を対象にした安全運転講習会を年6回実施し、約180人の社員が参加する。「こうした活動を継続してきた結果、2、3年前に比べると、社員による加害事故や物件事故はほとんどなくなりました」と小坂さんはいう。

指導した岩辺さんは、「二輪車・三輪車を販売する企業として、運転する方々の安全を守るための活動は使命と考えております。また、事故を起こせば経済的、会社イメージの損失も発生し、企業活動にマイナスの影響も与えます。事故を減らすためのお手伝いをするので、お客様の役に立てると考えています」と話す。近年は安全運転講習会を開催してほしいという要望は高まっているそうだ。「コンプライアンスを重視する企業が増えているので、業務で運転する社員の事故防止に対する企業の取り組み課題の優先順位が以前より上がってきているのでしよう」と岩辺さんは見る。

こうした企業のニーズに応えるため、ホンダの交通安全センターや二輪販売店は参加体験型の実践教育を提供している。